



「憧れをかたちに」

昨年の科学ニュースNo.1といえば、山中伸弥教授のノーベル賞受賞だと思えますが、もう一つ、宇宙飛行士の星出彰彦さんの国際宇宙ステーション長期滞在がありました。

「宇宙へ行ってみよう」「自分の目で、宇宙から地球を見てみたい」と思ったこと、ありませんか？

そんな皆さんの声にお答えして、生命の海科学館は昨年、蒲郡にいながらにして宇宙から地球を眺めるプロジェクトをスタートしました。名づけて「アノマロ宇宙へ行く！」宇宙から地球を見てみよう」。気象観測用の気球に便乗してカメラを打ち上げ、上空3万メートルから地球を撮影する計画です。宇宙：

というにはちょっと足りないかもしれませんが、黒い宇宙に青く輝く、ほんのり丸い地球の輪郭線が見えるはず！

思いに賛同してくださった大企業や企業など多くの方のご協力をいただき、昨年10月27日、打ち上げは無事成功。スタッフや市民の方々が見守る中、カメラを載せた気球はラグーナビーチから飛び立ち、青空に吸い込まれるように上昇していきました。

しかし残念ながら、宇宙からの映像を見ることはできませんでした。大波に阻まれ、海に着水したカメラを回収することができなかったのです。悔しいです。でも、きつとこれまで宇宙開発に携わってきた方々もかみしめてきた悔しさなのだと思います。参加者・協力者の皆さんとともにこの苦さを味わうこと大切さも感じていきます。

宇宙への憧れ、科学への思いをかたちにした。今年も科学館の挑戦は続きます。

生命の海科学館のエネルギーは、皆さんの声です。宇宙への、地球への、海への憧れ、お聞かせください。



思いだけで膨らむヘリウムガス色の気球。宇宙へ届け！



～大塚の丸山古墳～

「丸山古墳」があったと考えられています。

現地に行ってみても、残念ながら今では古墳の面影はみられません。しかし、付近からは埴輪(古墳の上やまわりに置いた焼き物)が出土しているので、ここにむかし古墳があったことがわかっています。

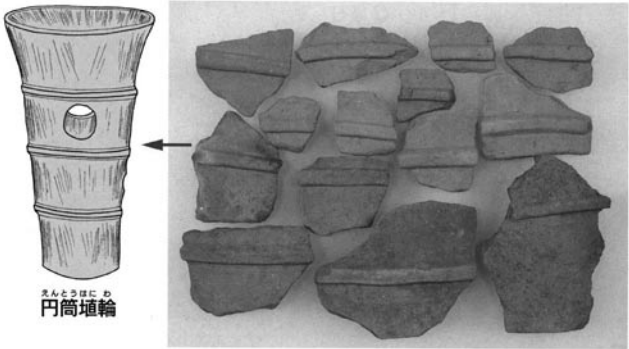
この丸山古墳には、どのような人が葬られたのでしょうか。文字による記録がほとんど残っていない時代なので、想像するしかありませんが、三河湾を見下ろす小高い丘に造られていますから、海上交通を支配した豪族のお墓ではないかと言われています。

3世紀の終わりごろから、7世紀までを古墳時代と言います。このころ蒲郡においても、たくさん古墳(むかしの豪族のお墓)が造られました。

それらの古墳は、現在、姿をとどめているものもあれば、開発などによって失われてしまったものもあります。今回は大塚にあった「丸山古墳」を紹介します。

大塚の「塚」は古墳のことで、「大きい古墳」もしくは「多くの古墳」を意味し、それが地名の由来となったとも言われています。

蒲郡市の一番東側、豊川市御津町との境あたりに市営丸山住宅があります。ややご年配の方には、「むかしバラ園があった場所」として知られているところから1500年くらい前に造られた



丸山古墳で出土した埴輪